

探究的な学習を高大接続の観点から考える  
— 登本洋子先生（東京学芸大学准教授）にインタビュー —

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



登本 洋子  
のぼりもと ようこ

## 東京学芸大学 准教授

先端教育人材育成推進機構 高校教育開発推進「高校探究プロジェクト」(三菱みらい育成財団助成事業) 担当

文部科学省視学委員

玉川学園高学年(中3~高3)教諭、桐蔭学園中等教育学校/高等学校教諭・探究統括主任を経て現職

東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了、博士(情報科学)、探究的な学習および情報教育について研究

著書に『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』(玉川大学出版部、2014年)など



# 議論の内容

- 経験世界から問いを立てることを高校生に求めたいが、どう思うか？SSHとの関連性
- 探究的な学習は高大接続の観点から見て有用か？

それではご覧ください